



うきや さと  
**浮野の里**  
**絶滅危惧2類**  
**ノウルシが群生**



加藤 良一

令和4年(2022) 4月4日

昔ながらの田園風景が残る埼玉県東部、加須市かぞの『浮野の里』うきやは、周辺に屋敷林たぼりや田堀※、茅葺屋根に使ったヨシ原(ちりじ野)、くぬぎ並木などの田園景観が保全され、埼玉県から**絶滅危惧2類**に指定されている貴重な植物「ノウルシ」の群生が見られます。平成7年度(1995)には全国「水の郷」百選に認定され、さらに平成19年度(2007)には埼玉県から「緑のトラスト保全第10号地」にも指定されています。



「浮野の里」案内板

※田堀(たぼり)  
 江戸時代、米の収穫量を増やすため、低湿な土地に排水のための溝(田堀)を掘り、掘り上げた土を周囲に盛って良田化した名残で、新田開発当時の農耕文化遺産の一つです。かつては、刈り取った稲を田舟で運び出す水路としても活用されていました。

■ 全国「水の郷」百選

全国「水の郷」百選は、国土交通省が、水環境保全の重要性について広く国民への理解を目指して設定されています。水を守り、水を活かした地域づくりを推進するため、各地域に固有の水をめぐる歴史・文化や優れた水環境の保持・保全に努め、水と人との密接なつながりを形成し、水を活かしたまちづくり

に優れた成果を上げている107地域を認定したものです。

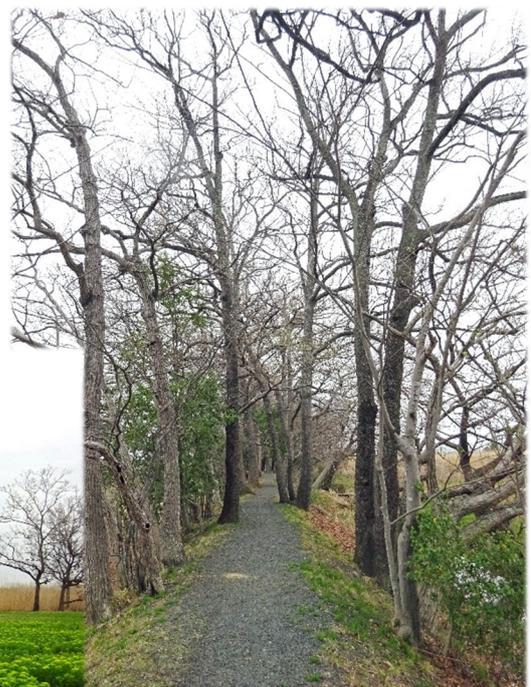
例をいくつか拾うと、北海道「人と自然がきらめく町—喜茂別町」、山形県「水をシンボルに「自然と共存する郷」—西川町」、千葉県「板東太郎に育まれた 水と歴史にふれるまち 佐原—佐原市(香取市)」、新潟県「流雪溝発祥の地 こいで—小出町(魚沼市)」、奈良県「天の国・木の国・川の国「名水の天川村」—天川村」、高知県「四万十の清流映えるまち—中村市(四万十市)」、福岡県「水辺とひとが輝くまち 柳川—柳川市」、沖縄県「“グスクと水の里” たまぐすく—玉城村(南城市)」などがあります。

埼玉では、「昔ながらの武蔵野の田園風景を残す「浮野の里」—加須市」、「荒川上流の伝承とまつりのまち—寄居町」、「水輪のまち…きたかわべ—北川辺町」の3地域が認定されています。

また、治水システムが自然環境と人間の共存に寄与しているケースや、歴史のある運河、用水路、ため池、棚田なども選考の対象となっており、必ずしも観光スポットとして有用な場所ばかりではないが、日本における人と水の関わりを考える上で興味深い百選です。因みに、『浮野の里』は、ふだん訪れる人も少なく、観光目当てで出かけて行っても、ノウルシの群生が見られるくらいで、他に特別な施設もなくほとんど観光地とはいえないかも知れません。地元でもあまり話題に上ることがありません。しかし、人と水との関りを考えた場合、とても重要な地域なので大切に維持保存してゆかねばなりません。

## ■ 浮野とは

なぜ『浮野』というのでしょうか。地元では昔から、その地域の所有者の屋号「アサマ」と、原野の意味の「ヤ」とで「アサマヤ」と呼ばれ、長老からはアサマヤは「ウキヤ」だ、とも聞かされたそうです。明治43年(1910)8月の洪水、昭和22年(1947)9月のカスリン台風による洪水のときも、周囲は水をかぶり、水没したにもかかわらずこの「浮野」の一部は浮上したという。洪水のときに浮く原野という意味もあるようです。





## ■ 貴重なノウルシ

『浮野の里』では、4月上旬から中旬になると、「ノウルシ」が鮮やかな黄色に色付き、見頃になります。ノウルシは、トウダイグサ科の多年草で、ここでは約千㎡の群生地となっています。ノウルシは、絶滅の危険が増しているとして埼玉県から**絶滅危惧2類**に指定されている貴重な植物です。

また、6月中旬には「浮野の里・あやめ祭り」が開催され、花菖蒲が咲き、女船頭さんの田舟遊覧などがあります。なお、「加須の浮野とその植物」が、埼玉県の天然記念物に指定されています。

### 1388. の う る し

*Euphorbia adenochlora* Morr. et Decne.

(= *Galarhoeus adenochlorus* Hara)

〔とうだいぐさ科〕

北海道、本州、九州などの湿地にみられる多年生草本で時に大群落をつくっている。根茎はふくらんでいて、横にはい、茎は直立して、高さ30cm位、分枝し、強い。茎を切ると白い汁が出る。互生している葉は柄をもたず、細長い楕円形または倒皮針形、先端は鈍くて、基部はせばまり、薄質で裏面に細かな毛があるが、この毛は柄の上部にもまばらにあることがある。茎の先に倒皮針形の5葉を輪生し、そこから枝が散形にのび、4月頃花を開く。包は小さく卵形か円形をしていて色は黄色い。小総包にある四つの腺体は広楕円形である。この小総包の中に小花柄のついた1子房の1本の雌しべと、1本の雄しべをもつ雄花数個とをいれている。子房は球形で表面にはいぼのような突起があり、3花柱が立ち、さらに先端が2分している。さく果は3室、形は球形で、表面にいぼが沢山あり、熟すと三つのからに裂ける。種子はほとんど球形で、なめらかである。有毒植物。〔日本名〕野漆。ウルシに似た汁が茎から出ることしめった野原にはえることとからついたもの。〔漢名〕草茵茹は正しい使い方ではない。



(牧野新日本植物図鑑より)



## ■ ノウルシによる「かぶれ」

ノウルシの枝葉から出る乳液に触れると皮膚がかぶれることが知られています。また、ノウルシに限らずコニシキソウなどのトウダイグサ科植物には、「かぶれ」を誘起する物質が含まれているといわれており、細胞実験により細胞毒性を示すことが確認されています。



[Back](#)

[虫めがねTopへ](#)

[Home](#)

[Home Pageへ](#)